令和８年度　全国学力・学習状況調査　結果概要

1調査対象　令和8年度　6 学年

2　調査実施日　令和8年4月23日（木）

＊児童質問調査　4月24日（金）

3　学習状況調査結果の概要

今年度は、国語・算数の２教科および児童質問紙調査で実施されました。

全体として、昨年度の取組の成果が着実に表れ、大きな改善が見られました。一方で、観点・領域別にみると新たな課題が見られたので、学校としてデータを分析・共有し、対策を講じていきます。

【1　国語科】

昨年度から「言葉の特徴や使い方（漢字・語彙等）」が大幅に向上し、「A 話すこと・聞くこと」の領域でも改善が見られました。一方、「C 読むこと」や、本文から正確に情報を引用して指定された条件に沿って文章を構成・記述する力に課題が見られました。

【2　算数科】

「C 変化と関係」の領域が大きく向上しました。また、昨年度課題であった「記述式」の設問でも改善が見られました。一方、「B 図形」、「D データの活用」の領域に課題がありました。また、計算は合っているものの、問題文の「問い（求める単位や指定）」に正対していない誤答などの、確認不足・ミスなどが多く見られました。

【3　成果と課題の詳細】

＜成果や伸びている点＞

〇国語 語彙・漢字などの言語事項：国語の漢字・語彙等の基礎知識

〇国語「話すこと・聞くこと」領域：相手や目的に応じた適切なやり取りや聞き取り

〇算数「変化と関係」の領域：数量の関係や変化の規則性を捉える力

〇算数「記述式問題」への対応：筋道を立てて考えや理由を言葉屋敷で説明する力

〇算数 学習意欲・態度　：算数に対する意識、主体的な学習態度

＜課題：今後重点的に取り組む点＞

〇正確な引用と条件記述　：本文の言葉を正確に抜き出して引用し、指定条件を満たして文章を推敲・構成する力に課題が見られます。

〇設問の読み取りと見直し：問題文の「問い（求められている単位や指定等）」を正しく読み取り、見直す習慣に課題がありました。

〇ICT 機器の活用　：授業での ICT 活用（情報整理やスライド作成）に対する自己効力感に課題がありました。

〇読書習慣の二極化　：読書をする児童と、殆ど読まない子の二極化の傾向がみられました。

4　今回の結果を受けて（アクションプラン）

① **条件に沿った引用・記述および推敲指導の充実**：国語科や社会科において、本文や資料から正確に情報を引用する指導や、指定条件に沿って記述する活動を計画的に取り入れます。

② **問いの正確な読み取りと見直しの徹底**:問題を解き始める段階で「何が問われているのか（求められている単位、学級名、答える対象等）」を正確に読み取る指導を充実させます。その上で、自分の解答が「問い」に正対しているかを最後まで確認する習慣を定着させます。

③ **授業での日常的な ICT 活用の推進**：思考ツールを用いた情報整理やプレゼンテーション作成の機会を増やし、ICT 端末活用への自信を高めます。

④ **読書活動の推進**：学校図書館を活用した選書・読書活動を推進するとともに、家庭読書への声かけなどを通して、日常的な読書習慣の定着を図ります。

⑤ **家庭学習習慣の継続的な取り組みの推進**：昨年度から成果が見られている家庭での学習習慣の定着に向け、ICT ドリルや自学ノートの活用をはじめとする取組を継続し、児童一人一人の習熟度に応じた主体的な学びを推し進めます。

5　生活習慣や学習状況等に関する調査結果より

本校の児童の生活や意識についてのアンケート結果（児童質問紙）と、学力調査の点数をかけ合わせた分析（クロス集計）を行いました。その中から、特にご家庭と共有したい重要な傾向をご報告します。

＜1　特に顕著だった項目（生活面・意識面）＞

全体的な傾向として、将来への夢や高い規範意識・思いやりの心が見られたほか、ご家庭のご協力により基本的な生活習慣や対話が大変良好に保たれています。一方で、メディアの長時間利用に今後の課題が見られました。

〇将来への夢・自己肯定感：「将来の夢や目標を持っている」と答えた児童の割合や「自分には良いところがある」と答えた割合が全国平均を大きく上回り、未来に前向きな姿勢が見られました。

〇規範意識と思いやりの心：「困っている人を進んで助ける」や「いじめはどんな理由があってもいけない」と答えた割合が非常に高く、規範意識や思いやりの心が

〇基本的な生活習慣・家庭での対話：「朝食を毎日食べる」や「決まった時刻に起きる」、「学校の勉強について家族と話す」割合が全国を大きく上回っています。日頃の温かいご理解とご協力に心より感謝申し上げます。

△ メディア・動画視聴等の時間：平日にスマホやテレビ等で SNS・動画視聴などを「4 時間以上」行う児童の割合が全国よりも高めの傾向にあります。健やかな生活習慣の維持に向け、ご家庭でもメディア利用のルールづくりや声かけにご協力をお願いいたします。

＜2　学力との相関が高かった項目（クロス集計）＞

正答率と相関の高かった質問事項	分析・傾向	対策・ご家庭へのお願い
自分と違う意見について考えるのは楽しいですか。	「楽しい」と答えた児童ほど、正答率が高い傾向が見られました。	友達の意見を聞いたり、自分の意見を言ったりする「対話のある学習」を授業で積極的に取り入れます。ご家庭でもお子様の考えを聞く会話を大切にしてください。
5 年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか。	国語・算数ともに、工夫している児童ほど正答率が高い結果となりました。	思考ツール（ベン図・チャート等）や ICT を活用し、自分の考えを整理して表現・発表する機会を増やします。

家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。。	計画を立てて自主的に取り組んでいる児童ほど正答率が高く、計画性と学習時間が学力の土台となることが分かりました	学校で自学ノートの活用や「学習の進め方」を指導し、自主学習を奨励します。ご家庭でも宿題だけでなく自主学習を進められるようご協力をお願いします。
学習した内容について、わかった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。	自分の理解度を把握し、分からない点を見直している児童は、つまずきを放置しないため、基礎学力が定着しやすい傾向がありました。	児童一人一人の理解度に応じた学習ドリル（タブレット等）を活用し、振り返りと定着を図ります。ご家庭でも間違えた問題の解き直しにご協力ください。
学校の授業時間以外に、普段、１日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。	読書時間が長い児童ほど国語の正答率に正の相関が見られました。また「読書が好き」と答えた児童ほど国語・算数ともに正答率が高い傾向が見られました。	学校図書館を活用した選書指導や読書活動を年間通して推進します。ご家庭でも本に親しむ時間（家庭読書）の確保にご協力をお願いします。